

今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2024年1月1日 (毎月1日発行)

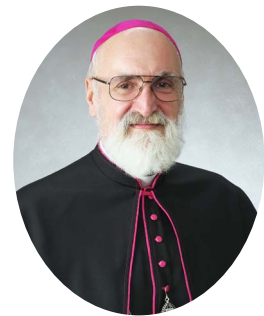
カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第782号 (1月号)



あけましておめでとうござい
ます。新たな年を迎え、新たな歩み
をはじめににあたつて、この被造界
で同じ時を共有するすべてのもの
心から新年の挨拶を送ります。そ
して、この素晴らしい被造界を創造
し、時を定めて導き、わたしたちに歩
み寄つて時の中に身を置き、今もい
つも救いのみわざを成し遂げてくだ
さる三位一体の神を賛美します。

創造による時の始まりと救い主
の到来の時の始まりは、しばしば
対比的に語られます。最初の時の
はじまりに置かれた神の似姿は、自
身の聖性に気付かず、自ら聖なる神
を離れることによって、神からの永
遠のいのちを失ってしまいました。他
方、救い主の到来による新たな時の
はじまりに置かれた神の似姿は、い
のちの与え主と共にいることによ
って聖性を保ち、永遠のいのちにいた
る神の救いのわざの協力者となつた
のです。その根本的な違いはいつた
い何だったのでしょうか？



カトリック那覇教区
ウェイン・F・バートン司教

人祖は、自らが神のようになれる
と思ひ、神でないものの言葉を信じ、
神以外のものを選択しました。他方、
マリアは神のみことばを受け容れ
「おことば通り、この身に成ります
ように。」(ルカ一三十八)と表明し、
「神は我々と共におられる」(マタイ
一・二三)ことを信じ、神と共に
生きることを選択したのです。

いのちの与え主である神と共にい
ることで、いのち輝くマリアの姿に
接したエリザベトは、その胎内の子
と共に喜び踊り、「主がおつしやつ
たことは必ず実現すると信じた方
は、何と幸いでしょう。」(ルカ一
四五)と歓喜の叫びをあげます。
こうして救い主イエスは到来し、救
いのわざが始動することになったの
です。神の呼びかけに「はい」と応
えること、そして「私たちと共に
いる神」と共に生きること、神か
ら離れないことによってマリアの
いのちの輝き、その尊い聖性の光を
灯し、神のわざに協力し、救いの泉
である主イエスを現わしたのです。

新しい年のはじめに教会が「神の
母マリア」を祝うのは、すべての人
が神の似姿としてのいのちを頂い
て存在しており、人のいのちが神
と共にあることの喜びと希望に輝く
とき、いのちの源である神の聖なる
光を帯び、その光によってあらゆる

ものの救いの泉が、人間を通して現
れることを祝うのであり、あなたも
わたしも神の存在をはっきりと示す
聖性を帯びていると教えているので
す。

人間の尊厳、いのちの尊さが軽ん
じられる人道危機を目にするとき、
私たちは暗く悲しい気持ちに覆われ
てしまいます。逆に人の良心の声が
大切にされ、それに従い、喜び溢れ
る姿に接するとき、その周りのいの
ちも喜びに満たされます。どんな状
況においても良心の声に聴き従い、
目の輝きを失わずに生き生きとして
いる人の姿は、かけがえのない人間
の聖性の輝きです。それは取りも直
さず、創造主の聖性の現れであり、
そこに救いの泉が湧き出るのです。

さあ、聖母マリアに倣つて、みこ
とばを受け容れて共に生き、与えら
れたいのちの輝かせ、あらゆるいの
ちに託された聖性の光に気付く、救
いの泉を現わしましょう。ひとりの
人間の聖性は人類全体の救いにつな
がっています。神は、人の聖性を通
して、永遠のいのち輝く泉である救
い主イエス・キリストの到来を現わ
されるのです。あなたの聖性の光、
いのちの輝きをマリアの賛歌にあわ
せて共に喜び歌いましょう。





2024 Diocesan Aim: “May your Life Shine, With the Splendor of Holiness, Like Living Water in a Parched Land”



I want to wish all of you a very Happy New Year!!! I hope that the New Year will be filled with every blessing from the Lord. May He bless you and your family with good health, happiness, and prosperity. Every year we pick a Diocesan Aim for the year. For 2024 the Diocesan Aim is: “May your Life Shine, With the Splendor of Holiness, Like Living Water in a Parched Land”.

Our Diocesan Aim begins with the words, “May your Life Shine,” because there has been so much war and fighting around the world over the last few years, we thought that it would be good to remind ourselves that life is a wonderful God-given gift. Not only our individual life but also the life that surrounds us.

As we live our life, we become aware of the need to use all the talents that God has given us. We need to shine for others!!! The best way to shine is by letting the Holy Spirit gradually make us holy. Yes, holy people make a difference in the world; they make the world better. If we use all our talents to help other people, and try to avoid sin by developing our virtues, we could become an instrument of peace, to make the world better for ourselves and others.

Holy people search for the poor, the oppressed and those who are in need. Like Christ they become, “Living Water” for those who are in spiritual or physical pain, those who are traveling in a “Parched Land”. They water the desert in a person’s soul with spiritual gifts like forgiveness, trust, love, faith, and peace. They help to create new life in people when they are desperate to survive. They become springs of salvation for themselves and for others.

In other words, the aim for this year is for each of us to recognize the gift of life that we have received from God. And to let this life shine to its fullest potential in each of us. The best way to let our lives shine is to grow in holiness. Holiness is to become like Christ in the way that we think, speak, and act. Holiness is a way to become an oasis for everyone in need, offering the refreshing “Living Water” of Christ.

A good example of a life well lived with the splendor of holiness is our Blessed Mother. When she accepted to become the Mother of God she must have known that it was not her, but God who would make her worthy of this calling. And indeed, the holiness of her life still shines as an example for all of us. She remains a source of “Living Water” for the whole world.

Let us join Mary in praying, “My soul magnifies the Lord, and my spirit rejoices in God my Savior.” (Luke 1: 47)



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX: **098-937-5001**

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

1月例会



那覇教区平和委員会



日時：1月28日(日) 14:00～16:00

場所：安里カトリック教会

講師：名富 綾乃氏 (沖縄県立図書館指導主事)
小禄教会会員

演題：**中学生の祈る平和** ～琉歌学習を通して～

カトリック那覇教区平和委員会

問い合わせ ☎090-1949-6569 (稲福)



思い煩いは神にお任せする

フランシス・ティエン神父

安里教会 主任司祭



復なる聖マリア安里教会では、御言葉はⅠペトロ五・7が選ばれました。それは『思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけてくださるからです』。

聖書の中の数多い神様の御言葉の中から、Ⅰペトロ五・7の箇所が選ばれたその理由を皆さんと共に分かち合いたいと思います。

て、承諾の返事をいたしました。一方、心の中では不安や心配がだんだん大きくなっていきました。安里教会に帰ってからすぐ聖堂に入り、その日の晩の祈りを唱えました。

その祈りの中の神の言葉は、Ⅰペトロ五・7でした。その時、聖ペトロは『思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけてくださるからです』と私を支え、力づけてくださいました。私はその言葉を深く味わっていく内に、心の中に心配や不安などすべて神様にお任せしようと思えました。そうするといつしか心は落ち着き、神様が私のことを心にかけてくださることを深く感じました。

二〇二四年を迎え、新たな年の歩みを始めるにあたって、『あらゆる祝福の源である神様が、皆さんを豊かな恵みと祝福で満たし、この一年を通してたえず見守ってくださいますように』と心からお祈り申し上げます。

二〇一五年六月十四日水曜日午後三時頃、押川司教様からの電話がありました。私に話したいことがあるので事務所に来るようにと言われました。三十分程の話の中で、司教様は私に、安里教会の助任司祭からカテドラル、開南教会の主任司祭に任命するという話を話されました。私はたいへん驚きました。司教様のご意向を受け入れ

解決に向かい、それを乗り越えることができるなら、共に解決していくという喜びもあると思います。

私たちの共同体の絆はいつそう強くなり、一致することができると。心配や思い悩みは何もかも神にお任せしましょう。なぜなら神様が私たちの教会のすべての事をいつも心にかけてくださるからです。

その日から、私はその御言葉を心に留め、勇気を持って教会共同体の一致のために最も大切な祈りから始め、そして教会の評議会のメンバーたちのために、まず一泊二日の研修会を開催しました。すべての教会の運営や行事等について彼らと共に話し合って年間行事を計画しました。心を一つにして熱心に準備しているのは私たちですが、その準備や計画をどう実現していくのかは神様です。私たちはその心と考え方に沿って、奉仕していくことにしました。

教会の状況や雰囲気などが段々良くなってきました。例えば、大きな教区の行事である慈しみの臨時聖年、大城神父様のお葬式、サマーキャンプ五十周年記念行事等です。個人的には、二〇二一年十一月十九日に私は兄弟司祭たちとバドミントン競

技の運動中に倒れて、心肺停止状態になりましたが、神様が奇的に生き返らせてくださいました。そして、二〇二二年七月七日に父が神のもとに召された時、私の心の中の心配事を、その御言葉に全て委ねました。そのおかげですべての事を乗り越える事ができました。

このような信仰体験を持っている私は、この短冊の言葉を安里教会の皆さんはじめ、那覇教区の信者の皆さんと分かち合いたいと思いました。私たちは新しい年を喜んで迎え、一年間の思い煩いすべてを神の御手にお任せして、そのご計画を信頼しましょう。父である神様は私たちの事をいつも心にかけてくださいます。

皆さんは毎年短冊を喜んで頂いていることでしょう。ところで、家に帰ってから、それをどこに置いてあるでしょうか。二〇二四年の二つの短冊が『この家に主の平和』と『神の御言葉』が私たちの家族を照らして導いてくださいますように心から願い、祈っています。短冊を家の中で一番見えやすい所に飾って、その書かれた御言葉を一年間の目標として大事にしましょう。

那覇教区のみなさん、日本最南端の教会「海の星なる聖母マリア」のカトリック石垣教会からの出来事や日頃から感じる想いを述べたいと思います。

大きなイベントは、コロナ禍で中断されていた那覇教区の司祭・助祭会議が、去る二〇二三年十一月七日・八日の両日、四年ぶりに開かれたことです。

初日の七日午前中、本島各地や宮古島から、ウエ

イン司教様初め、司祭、助祭、教会スタッフ併せて総勢二十六名のメンバーが各飛行便で「南ぬ島空港」に降り立ちました。

早速、教会信徒の送迎車で石垣教会へ向かい、女性の会のメンバーが用意したランチで腹ごしらえした後に海星小学校多目的室において、報告や審議事項について二時間を超える充実した拡大会議が開催されました。

また、司祭会のメンバーには、海星小学校創立者で石垣教会主任司祭でもあられたベトロ神父様もおられ、久しぶりの来島ということ、高齢の信徒への自宅訪問をし、たくさんの祝福を頂きました。

夕方からは、平良秀司信徒代

表も交えて、二十八名の大人数で親睦会を開催し、クレーバー神父の乾杯に始まり、八重山の泡盛古酒やビール、美味しい地元料理と楽しいおしゃべりで、久しぶりの大勢での懇親会は大いに盛り上がりしました。

たて軸よこ軸 日本最南端の カトリック石垣教会から

石垣教会 ヤコブ 平良守弘

明媚な川平湾から帰りの南ぬ島空港へは、二〇二三年三月に五七〇名の自衛隊員が駐屯し開設された、ミサイル部隊を含む陸上自衛隊石垣駐屯地の現状を確認してもらうために、駐屯地ゲート前を通って空港へ向かいました。最近の石垣島は、中国と領土問題で揺れており、尖閣諸島を十五隻以上の巡視船増強で警備する石垣海上保安部尖閣

専従隊の創設も含め、急変しています。この小さな島の中で平和をどういう形で求めていくかという課題を色々と議論している状況が続いています。

名な石垣永将の史跡巡り、カトリック教会の天の門墓地、琉球王府と戦った八重山の英雄オヤケアカハチの銅像、一七七年に起きた明和の大津波で陸揚げされた津波石、国の名勝に指定された川平湾などを大型バスで巡り、石垣市博物館職員の大瀧永寛氏に細かい説明を頂きました。もちろん、昼食は美味しい八重山そば&じゅうじいおにぎりセツトを川平公民館で頬張り

ました。天気にも恵まれ、エメラルドグリーン的大海と白い砂浜の風光

さを感じましたし、プログラム最後の在校生と卒業生で踊った校歌ダンスは、全員息の合った踊りで圧巻でした。

このように、四年ぶりに日常生活が復活してきましたが、世界中では、キリスト教誕生の中心地である中東での戦争、ロシアによるウクライナ侵攻、また地球温暖化に伴う自然災害等と命の危機に直面している人々がたくさんいます。日本最南端の教会「海の星なる聖母マリア」のカトリック石垣教会から平和を願う風を送りたいと思う今日この頃です。風は南から〜！



司祭・助祭会議メンバー



クレーバー神父様の乾杯



海星小クリスマスパーティー

2023年12月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2023年12月5日(火) 10:00~12:00 於・安里教会ホール。
会議の前に、押川司教の司式で聖体賛美式(ベネディクション)が行われた。

1. 報告及び連絡事項: 司会は古川神父が担当。

- ・ウェイン司教が初めの祈りを行って開式された。
- ①前回(11月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ②マーシーさんから司教、司祭の休暇と研修による不在が報告された。
ウェイン司教、12/14~16、司教協議会第2回臨時総会、潮見にて。江戸の大殉教400年記念ミサ。社会問題研修会。東京教区補佐司教叙階式。
ピーター神父、11/14~12/14、休暇。
マイケル神父、12/6~8、親戚訪問のため群馬へ。
- ③伊野田の巡回教会について、ウェイン司教から報告が行われた。滞在されていたシスターが転勤となるので、土地、家屋の利用について今後協議していくことが報告された。
- ④ウェイン司教から大里教会の利用についても報告が行われた。台風の被害と老朽化のため、教会を使つてのミサや活動は中止しているが、南城市の保育団体から学童保育所としての活用の申し出があり、月~土を学童が、日曜日を教会が利用する方向で協議していきたいが、司祭団の意見も聞きたい、との提言を受け、売却ではなく、期間を決めての貸与の方向で、午後から予定されている顧問会と責任役員会の合同会議に一任することが決められた。
- ⑤典礼について、担当のボスコ神父から教区報への典礼に関する記事の毎月掲載の要望が寄せられているが、紙面の都合もあるので、年に数回、事前に司教の確認を経て行うよう要請があった。また、繰り返しになるが、大人の洗礼は十分な準備期間を経て復活祭に行うべきであることが確認された。但し、臨終洗礼は、いつでも授けることができる。
- ⑥2024年度教区目標(案)がウェイン司教から提示された。「いのちの輝きは 聖性の光 救いの泉」。争いや災害の多い世の中にあって、ひとり一人のいのちの輝きが、聖性の光として、また救いの泉である主イエスを現わす希望へと発展するようにとの思いで練った標語であることが説明され、了承された。
- ⑦その他
- ・12月1日に行われた愛楽園教会への司教公式訪問について、主任のマイケル神父から感謝が述べられ、作成された記念のカードが司教と司祭団に配られた。
- ・スティーブ神父に関する通知があり、同師は所属する宣教会から退会処分となり、もはやミサの司式等の秘跡執行の権能委任がないため、那覇教区内での司牧活動も出来ない旨注意が促された。
- ・黙想の家の利用や典礼に関することで、日本の司教団の見解とは異なる典礼所作等の申し入れがあるが、基地内ではチャップレンの許可があっても、基地以外では那覇教区司教の権限下にあり、那覇教区は日本の司教団の方針に従って典礼儀式を行っているため、那覇教区の方針を尊重すべき。また、那覇教区は日本の法律に従って法人運営がなされており、建物の運用や土地の活用も法律に基づいており、黙想の家の利用法についてもそれに従う。こうしたことは、法律の定めや日本司教団の取り決め等に従って判断することが必要なので、ウェイン司教と相談の上判断するよう要請がなされた。
- ・2024年1月7日(日)に読谷教会で行われる平和のためのコンサートについて、リカルド神父から案内と参加の要請が行われた。

2. 審議事項

- ①教会現勢報告について、事務局長の津波古さんから記入用紙が配られ、司祭たちへの説明が行われた。提出期限の2024年1月26日(金)を厳守するよう協力要請がなされた。
- ②教区の子どもクリスマスパーティーについて担当のブイ神父から案内が行われた。12/30(土)午後1時半~5時半まで安里教会で行われる。子供たちに呼び掛けて、沢山参加されるよう案内があった。
- ③司教・養成者合同会議の報告がウェイン司教から行われた。神学生の減少で九州での養成が困難となり、神学校は閉鎖されるが、司祭職を希望する者の養成のため、東京の神学校や他の方法も考えられるので、召命の発掘、促進に司祭たちも協力されるよう要請が行われた。
- ④第25回の日韓司教交流会の報告がウェイン司教から行われた。今回は25回目の記念回にあたり、過去の歴史を振り返りつつも、将来に向けた歴史認識の共有や様々な現代課題について共通認識の形成の更なる発展の上に、共にシノドス的な教会を率先してあかし、神の平和の確立に寄与する決意が文書で出されたことが報告され、その『記念メッセージ』が配布された。
- ⑤前回会議で話題に上った、司祭たちの顔写真の教区報への掲載について、教区報担当の新田に可否が問われ、全員の写真が手元に届き次第、掲載準備を進めることが返答された。
- ⑥カリタス沖縄の活動について、マーシーさんから報告が行われた。12月10日からゆいまーるシーズンボックスの設置を開始して協力と呼び掛けるので、信徒の皆さんにもお知らせして協力と呼び掛けて欲しい。また、ガザ地区の人道支援金の受付が開始されたことが書面で報告され、その呼びかけ等にも協力が要請された。
- ⑦主の降誕と新年のウェイン司教の予定が報告された。12/24、開南教会の19時のミサを主式、12/25、安里教会、朝9時のミサを主式。1/1、開南教会朝9時30分のミサを主式。
- ⑧2/11の教区の日が、2024年は日曜日に当たるため、開催日が協議された。協議の結果2/11(日)の14:00から行うことが決められた。結婚50年、60年、70年の信徒のお祝いも行う方向であるが、夫婦とも健在であることが要件となる。

- ・次回、拡大司祭・助祭会議は1/9(火)、午前10時~12時、安里教区センターで行われる。

2023 年 那覇教区女性の会 定例研修会 ペトロ神父さまの講話と御ミサ

11月11日(土) 安里教会 午後2時～5時 参加者 65名 記録: 与那原教会・馬屋原和美

I was born to love you.

今回の研修会は、ペトロ神父さまをお迎えしました。ペトロ神父さまは、9 月末に感染症でご入院されましたが、無事に退院されてお元気なお姿で喜びいっぱいの研修会となりました。研修会当日、ゆっくり確かな足取りで、壇上にあがられた神父さまは、「座るとみんなも眠くなるでしょう、この前、私も話している途中で眠くなったんです。だから立って話しましょうね」と話されて、みんなの笑い声が響くなかで講話が始まりました。

講話では、神学校で教えていたときの出来事から、大切なメッセージをいただきました。「授業の課題（レポート）に、ある学生が I was born to love you. とだけ書いてきたんですね。はじめはびっくりして、これは、私へのメッセージでしょうか？と。大変だと思いました。校長先生に相談しようと思って考えていたら、だんだんとわかってきました。I was born to love you. ステキでしょう、愛するために生まれてきた。今日はこれを覚えて帰ってください。」講話の後、コザ教会のメンバーが歌をプレゼントし

ました。戦後の何もない泡瀬の地で、教会のために歩くペトロ神父さまの宣教を思うひとときでした。

～クララ先生作詞 朧月夜の曲で

潮の香漂う 緑が丘に
尊き神の 宮を建てし
風呂敷片手に とぼとぼと
村から村へと 歩みを運ぶ

その後、神父さまも、私たちに歌をプレゼントしてくださいました。

トゥバラマ（琉歌つれづれより）
月ぬ美（かい）しゃや十日三日
女童美（かい）しゃや十七頃（ぐる）
「十五夜おつきさんではなくて、十三のおつきさんがいいんですね。満月でなくて、ちょっと欠けている・・・。」

完璧でない私たちでいいんだと、みんなを優しく包み込んでくださるペトロ神父さま。ありがとうございました。

10 月平和委員会講演会の報告

平和委員 稲福 捷夫

10 月の講演会の講師はウェイン司教。タイトルは「わが心の軌跡～激動の 1960 年代を生きて～」である。

司教は話をご自身の祖父母のことから始められた。彼らはカナダのフランス語圏から、貧困のためにボストンから 40km ぐらい離れたフィチバーグ市に難民のように移り住んだと言うのだ。「祖父はドイツ系、祖母はフランス系という最悪な組み合わせである」と笑いながら話した。反りの合わない二人をそう表現したのであるが、両国のステレオタイプの国民性は「愚直なまでに正論を通すドイツ人」と「繊細で、しなやかであるがしっかり筋を通すフランス人」であるようだ。剛と柔、ある意味で絶妙な組み合わせかもしれない。因みにウェイン司教の名字「バート」はドイツ系の名前である。さてバート家の新天地はアメリカ北東部で、その地域は別名 New England と呼ばれる。1620 年にボストン近くのプリマスに、信教の自由を求めてイギリスからピリグリムファーザーズが上陸した地だからだ。

ワスプ（WASP）と言う言葉がある。これは White（白人）、Anglo-Saxon（アングロサクソン）そして Protestant（プロテスタント）の頭文字の略称である。ワスプがアメリカの主流であるということ。歴代のアメリカの大統領はワスプであり、ワスプでないと大統領になれないという不文律があったようだ。ウェイン司教は 1954 年（昭和 29 年）に、フィチバーグ市で誕生する。そこはカトリックで、フランス語を話すコミュニティであった。

1962 年 10 月に、キューバ危機が起きた。その時ウェイン少年は 8 歳。「戦争の恐れがあるといわれて、私たち家族は動揺していたのを覚えている。」と司教は話した。そもそも、キューバ危機とは、冷戦下、キューバでのソ連のミサイル基地建設をめぐる米ソが対立した事件。あわや第三次世界大戦が勃発かと思われる事態にまで発展していた。当時のアメリカ大統領はジョン・F・ケネディー。カトリック信者で初の大統領。そしてソ連の書記長はニキータ・フルシチョフ。二人の対話の橋渡しをした影の立役者が教皇ヨハネ 23 世。そして戦争は回避される。因みにヨハネ 23 世は、その後あらゆる紛争・戦争に対する回勅「パーチェム・イン・テリスー地上の平和」を 1963 年に残している。

ケネディー大統領が問答無用の凶弾に倒れたとき、ウェイン司教は 9 歳。同郷で、ボストン訛を共有する大統領には特別な感情を持っていたので、家族中で泣いたという。その後、公民権運動のマーティン・ルーサー・キング牧師の暗殺、ロバート・ケネディーの暗殺が続く。そしてアメリカはベトナム戦争の泥沼にはまってしまうのである。

ウェイン少年は高校生の時にデモに参加する。ベトナム戦争に NO と言ったのだ。二人の神父が反戦活動を始めて、それに賛同する数人の神父や助祭、シスターたちが加わっていった。対立はウェイン少年の家庭内にも生じた。父親は「お国のために戦うべき」と言うスタンスだった。「母親は自分を理解してくれた」と司教は言うその指導者の神父の一人ジェラード神父とは運命的な出会いであった。そして「自分もその神父のようになりたい」と思うようになる。当時付き合っていた女性に神父になる話をすると、「神様には勝てない」と言って、最終的には承諾してくれた。1981 年～1983 年、2 年間に渡って尊敬する山城寛英神父より日本語を習うことができたのは幸いなことだった。言葉を越えたもの、日本の自然観、文化、そして歴史を学ぶ事ができたのである。アメリカの現大統領バイデンはケネディーに次ぐ二人目のカトリック信者のようだ。しかしイスラエル寄りの現行の政策は、ブーチン大統領に「ダブルスタンダード」と揶揄されても仕方のないことである。

当日は谷司教が「ガザ」への支援金への協力がよびかけられた。そして 46,000 円の浄財が集まり、「アハリー・アラブ病院を支援する会」に送られた。

教区NEWS教会

キリスト教音楽、その旋律と思想に

泡瀬教会

十一月三日泡瀬教会でキリスト教音楽の集いが行われました。チェリス聖歌隊、アンサンブルイリスの方々により、グレゴリオ聖歌、オルガン演奏で聖書から紡ぎ出されたみ言葉が音となり、聖堂に響き渡りました。



ラテン語、オルガンの旋律は、み言葉を平面ではなく立体的に捉える事ができ、且つ知識ではなく体験として感じ取ることができて、先人たちがどのように伝えようとしてきたのか、キリスト教の源流を辿り、誰もがその思いを馳せることができたのではないだろうか。また、改革派、アドベンチスト、ホーリネス、宜野湾伝道所、聖公会、バプテスト、カトリックと宗派を超えて寄り合い、皆で一つになって「神よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください」と聖フランシスコの平和を求める祈りを唱えることができたことは、こんな時期だからこそ祈りとは何かを改めて思い、有意義な時を共有することができました。これからも賛美を捧げ、この活動が継続されることを祈っています。神に感謝。

(与那原教会 佐藤芳樹)

合同黙想会

開南教会

十二月十六日、小緑教会、安里教会、首里教会、開南教会の日曜学校合同黙想会を安里教会で行いました。初聖体前の子から青年まで三十名近くの子どもたちが集合しました。『ともに生きる』というテーマで、マキシム神父様の講話をいただきました。

た。「寺」という漢字の意味から始まり、「寺」を構成にもつ漢字の数々をご提示されました。お寺に通う人々も教会に通う人々もみな、私たち神様の元に生かされている人間は、兄弟姉妹であること。例えば「待」は、待降節の「待」。「待」は待者の「待」。「詩」は「詩篇」の「詩」。「等」

は平等の「等」。宗教関係なく、みな繋がりがあふよ、と生活していく上で大切なことを教わりました。

その後、感想を自由に書いたり分かち合いをし、マキシム神父様、フランシス神父様、古川神父様にゆるしの秘跡を受け、ごミサに与りました。各教会から代表して、典

礼奉仕も務め、子どもから大人まで、お互いに刺激となるごミサでした。ごミサの後は、女性の会の皆さんの用意して下さったカレーライスをいただきました。

今回は、四小教区の合同黙想会でしたが、他の教会の皆さんとも声をかけ合って、親睦を深める機会を増やしていけたらなと思います。

黙想会にご協力いただいた皆様と神様に感謝します。ありがとうございました。

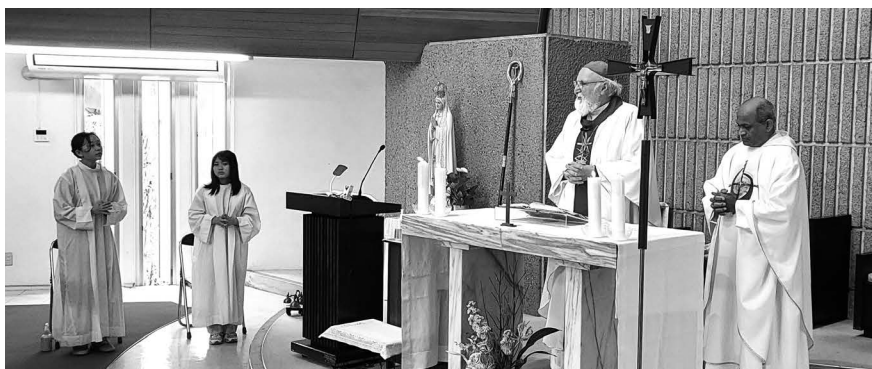
(島袋尚子)



司教様公式訪問

真栄原教会

十一月二十六日の「王であるキリストの祝日」は真栄原教会の記念日に当たり、ウエイン司教様の公式訪問がありました。



記念ミサは、デニス神父様との共同司式で十時より捧げられました。司教様は説教の中で、当日の福音(マタイ二五・11)を受け、「天の国に入る条件

は、自分の隣りにいる人に神を見ることです」と話されました。そのためには、差別や偏見を乗り越えなければならぬと、パレスチナとイスラエルのこじれた関係にも思いを寄せておられました。

ミサに引き続き、僅かな時間でしたが、語らいの場を持つことができました。その最後に、私達はグレゴリオ聖歌から平和を願うダ・パーチエム（カトリック聖歌集556番）と司教様の健康を祈念し、サルベ・レジーナ（カトリック聖歌集543番）を歌いました。

ようやく、コロナも収束する気配があり、ゆつくりとですが、教会の姿も元に戻りつつあります。今年は信徒ホールに場所を移して昼食会を開くことができました。ですが、コロナを経験した私達は、完全にコロナ以前に戻ることはできません。ポストコロナ、あるいは新たなパンデミックを想定した教会と信仰生活のあり方を考えて行く必要があるように思います。

ウエイン司教様、これからも私達をお導きください。よろしく願いいたします。（千村次生通信員）

作文 最優秀賞

小祿教会

昨年の秋、当教会所属の、小学二年生フォスターサザーランドきあらさんが、明治乳業の作文コンテストで最優秀賞をとりました。何にでも

前向きにチャレンジするきあらさんの作文をお送りします。どうぞみなさんも、かわいい作文をほっこりと楽しんでください。

（小祿教会 名富綾乃）

ピノキオ

フォスターサザーランドきあらお母さんから、ピノキオのぬいぐるみファミリーげきじょうのチケットが、当たつたと聞いてわくわくしました。わたしが、3才の時に行ったのがさいごでした。心にのこったシーンはピノキオが、海でゼベットのじいさんをたすけたところです。なぜなら、小さな子どもが大きな人をたすけたからです。わたしは、にたような、けいけんがあります。わたしがかいだんをおりる時おちそうになった時、かっている小がた犬の心のやさしいかわいい犬のミラがほしいがわにひっぱつたことがあります。それでわたしは、けがもしない

ですみました。

小さくても大きな人をたすけることが出来ると学びました。もしわたしがピノキオだったらゼベットのじいさんをたすけたと思います。わたしのほうは人をいっぱいあつめてみんなの力をかります。つぎに心にのこったことは、ピノキオがうそをついたら、はながのびるところです。わたしがうそをつく、はなはのびませんが、心のくるしみがのびます。うそをつくのは、だめです。なぜなら自分もみんなもさみしくなるからです。

このげきを見おわってわたしは、こまっている人をたすけようという気持ちになりました。またしらない人をしんじないようになろうと思いました。なぜならピノキオは、かんたんにきつねとネコにだまされたからです。わたしは、五人かぞくです。また、たくさん牛にゆうをのんでチケットをもらって、かぞくでまた、みれることをたのしみにしています。



家族と。中央がきあらさん



私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

葬祭の
「やすらい企画」

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059

